

## IX 久喜市ゆう・あい

### 1. 実施事業

#### (1) 定員と利用率

令和6年3月31日現在

| 事業名  | 定員  | 現員  | 平均利用率 |
|------|-----|-----|-------|
| 生活介護 | 20名 | 21名 | 93.3% |

#### (2) 利用者年齢構成

|      |    | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 70代 | 平均年齢  |
|------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-------|
| 生活介護 | 男性 |     | 4   | 8   | 1   | 1   |     |     | 32.4歳 |
|      | 女性 | 1   | 1   | 1   | 4   |     |     |     | 36.7歳 |

#### (3) 障害支援区分

|      |    | 未判定 | 区分1 | 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 | 計   |
|------|----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 生活介護 | 男性 |     |     |     |     | 1   | 1   | 12  | 14人 |
|      | 女性 |     |     |     |     | 2   | 1   | 4   | 7人  |
| 計    |    |     |     |     |     | 3   | 2   | 16  | 21人 |

### 1. 重点実施事項

#### (1) 職員の支援の質の向上

- ア グレーゾーンやスピーチロック、個人情報に関する内部研修、法人内の虐待防止研修、また、外部の虐待防止や権利擁護研修などにも参加して知識を深めた。
- イ 月毎に職員から虐待防止の標語を募り、全員で標語の内容を徹底できるよう心掛けた。職員会議では振り返りも行い虐待防止への意識を高めるよう取り組んだ。
- ウ 職員会議ではグループ討議を多く取り入れ、お互いに意見を出しやすくすることで、より深い話し合いができるようにし、支援の質の向上につなげる試みとした。

#### (2) 社会参加と余暇活動の充実

- ア 生活サポート協会が主催するアールブリュット展に利用者が創作した絵画や壁面作品を応募した。その中の作品が生活サポート協会の令和6年カレンダーに掲載され、また参加賞を各自にいただいたことで、利用者・家族にも作品が広く認められた実感につながる機会となった。
- イ 毎月ごと利用者が決めたテーマで壁面を制作し、カレンダーにして販売した。
- ウ 近隣清掃を月に2~3回程のペースで行った。重度の方が地域に貢献する活動として定着し、近隣の方にも喜んで頂いている。

- エ 新型コロナウイルスの社会的状況を見ながら、9、10月に3班に分かれて鉄道博物館や古代蓮の里へ社会体験外出に出かけた。また、7月から2月までに月に2回前後のペースで昼食外出を行った。

### 3. 具体的取り組み

#### (1) 利用者支援

- ア 4月から利用開始した利用者のケース会議を実施し、これまでの支援や特性などを振り返った。活発に意見交換をする中で対応を統一し、全体での支援を継続できるようにした。
- イ 活動班については、利用者の特性や得手不得手によって班分けした。缶の仕分け作業や缶・古紙回収、受託作業（バリ取り、割り箸の袋入れ等）、自主製品製作、創作、室内レクリエーション、散歩など、それぞれの希望を聞き取りながら計画した。希望する内容によっては、所属する活動班とは別の班で取り組めるように調整し、より幅広い経験ができるようにした。
- ウ 散歩やストレッチなど体を動かす機会を多く作り、久喜けいわの機能訓練棟を活用した運動や公園散策などを行った。クラブ活動ではDVDを見ながらダンスをする他に、長距離を歩行する「ウォーキングクラブ」を新たに作って活動した。
- エ 宮代特別支援学校の動作訓練は、先方との都合がつかず実施できなかったが、機能訓練の訪問指導を受け、日常動作の中でできる内容をアドバイスしていただき、実践した。

#### (2) 人材育成

- ア 内部研修において、小グループによる意見交換会を活発に行い、職員間で統一した見解で支援が行えるようにした。
- イ 夕会や面談などの機会に理想とする支援や目標とすべき職員像についてヒントとなるアドバイスをお互いにできるよう心掛け、それぞれの成長に繋げる取り組みとした。

#### (3) リスク管理

- ア 法定点検のほか定期的に建物内外を点検し、早めの修理や交換、安全が確保できるよう努めた。
- イ 公用車の管理担当者を決め、チェックリストを使って毎月点検を行った。安全運転に関しては法人研修に参加するほか、内部でも研修で学んだことの振り返りを行った。
- ウ 飲酒運転防止のためのアルコールチェッカーを導入した。
- エ 利用者一人一人に対して作成した「起こり得るリスク一覧表」の見直しを行った。
- オ 外部災害研修の受講と水害を想定した内部防災研修を実施。災害時の心構え

や対応を協議するなど、防災と日常の安全への取り組みについて全体で考える機会を設けた。

#### (4) 感染症防止対策

- ア 感染症防止に関する情報を職員間で共有し、日々の体調管理や各消毒、換気など、感染防止策を講じたこともあり、新型コロナウイルスの罹患者は出なかった。
- イ 職員はマスクを着用、食事や歯磨きの支援時はフェイスシールドの着用、パーテーションの設置、食事時間をずらして取る等、感染予防を徹底して取り組んだ。
- ウ 朝・昼の検温と、体調不良と思われる場合はこまめな検温をし、風邪症状が強いときには受診をすすめる、他利用者と距離をとって活動するなど体調管理や予防を心掛けた。看護師在勤時にはいろいろな助言を受けて対応した。
- エ 外出（社会体験、余暇、外食）では、密集する場所を避けて実施した。

#### (5) 地域交流

- ア 利用者の作成による「ゆう・あい通信」を年4回発行し、地域への回覧や協力者へ配布して、活動内容を知っていただいた。
- イ 7月に2日間、自主製品販売会を開催した。地域への回覧で販売会のお知らせをしたところ、近隣からの来客もあった。
- ウ 久喜市民まつりやコミュニティまつり、コスモスフェスタ、人権のつどい等に参加して、地域との交流に努めた。また、法人の未来推進委員会企画で開催した「けいわのさくひんでん」に、利用者の絵画や作品を展示した。
- エ 音楽活動を5月から再開、月1回の頻度で行った。時期に合わせたテーマでプログラムを作成し、ボランティアの講師からアドバイスを受けながら取り組んだ。毎回ボランティアの方も1名参加し、一緒に盛り上げていただいた。
- オ 介護等体験生や看護学生の実習の受け入れを行った。

#### (6) 事業運営（収益の向上）

- ア 4月に新規利用者1名を加え、定員を超えた利用受け入れをし、年間利用率は昨年度と比較して2%程度上昇した。
- イ 前年度ほぼ登所日できなかった利用者1名について、今後の支援について話し合いを行った。利用予定日前日の電話連絡や送迎利用も功を奏し、今年度は出席予定日のほとんどを欠席なく利用することができた。
- ウ 家族の要望に応じて、年間延人数133名の時間延長を受け入れた。
- エ 公用車2台を使用して、朝と夕2往復の送迎サービスを行った。その他、家族の都合や悪天候により送迎の希望があった場合には、適時送迎を実施した。
- オ 日中一時支援の利用希望はなかった。